

さかいせうかい しんぶん かぞく ひと いっしょ よ くだ
* 堺教会 CS 新聞「いずみのひろば」は家族の人と一緒に読んで下さい。

いずみのひろば

2017年10月号
日本基督教団堺教会
No.467 教会学校



「聖霊を信じる」 コリント信徒への手紙Ⅰ 12・1～3

イエス様は、十字架で死ぬ前の晩に、お弟子さんたちにたくさん大切なことをお教えになりました。その中で、イエス様はご自分が天の父なる神様のもとに昇られた後、神様にお願いして、天から「聖霊」を送っていただくという約束をしました。

「聖霊」とは神様の霊です。「霊」は、聖書では、「風」とか「息」と同じ言葉です。ペンテコステの日、聖霊が「激しい風の吹いてくる」ような音と共に天からきて、そこにいた一人ひとりが聖霊に満たされ、十字架と復活のイエス様が救い主であることを信じるものとされました。

「風」や「息」は目に見えませんね。目に見えないけれど、確かに私たちの周りにありますね？目に見えないのだから、ない！ということはありません。

「風」は力を生み出します。風車は風によって回るので電気を作ってみんなの生活に役立っています。

「息」もそうです。息は見えないけれど、これができないと私たちは生きていくことができません。見えないけれど大切なもの、なくてはならないもの。そのすべてのことに聖霊のお働きがあるのです。

そして、また、神様も見えません。でも、今も神様は私たちの心に、「息」を吹きかけるように語りかけられ、私たちに、イエス様を信じる信仰を与えてくださっています。聖霊のお働きなしには、誰も「イエス様を主と信じます」と告白することはできません。

世界中に教会ができたのも、私たちが教会に招かれているのも、イエス様を信じる人が次々に現れるのも聖霊のお働きによるものなのです。

教会は、「父なる神様」と「私たちを罪から救ってくださった神の子イエス様」と「聖霊なる神様」、この三つでひとつの神様を信じているのです。

私たちが、「今日もよく頑張ったな」と思ったり、「今日は楽しかったな」と思うときも、「すごく勇気がわいてきた！」と友達に優しくできた！」と、嬉しく思うときも、そこにも、聖霊のお働きがあるのです。自分の力だけでできたわけではないということを心に覚えていてほしいと思います。

いつも見守ってくださっていて、良い方向へと導いてくださるなんて、とても幸せなことですね。

いかつ ゆうこ せんせい
井勝 裕子先生